

## (1) 教育実習から学んだこと 〈7〉

### アクティビティ利用による4技能の総合的育成 (高校 英語)

文学部 4年 K.S

私が教育実習をさせて頂いたのは、埼玉県立 K 高等学校という、県下でも有数の進学校である。中でも、大学受験のための英語の指導には力を入れており、週に1度、朝一番に英単語テストをやるなどしている。その条件下でも、学習指導要領に書かれている「4技能の総合的育成」は重視して実施すべきこととなる。私は実習期間中の学習指導案を書く際は「4技能の総合的育成」を意識して作成した。授業経験を交えて、4技能の総合的育成の方法について考えたことを綴っていく。

#### ◇限られた時間の中で

初めて授業をした際は、4技能の総合的育成を意識するあまり、「教科書音読」、「カセットリスニング」などを意識し過ぎて、果たすべき内容を終わることができなかつたり、授業自体が単調になってしまうという問題に気が付いた。カリキュラムを終わることができないということは、適切な時期に適切な指導をできないという点で問題があるように思える。授業が単調ということは、生徒が寝てしまったり、何も授業の内容を記憶せずに授業の日数だけが積み重なっていったりしてしまう可能性がある。これらから、単に4技能を育成する内容を授業に盛り込めばよいというわけではないことが分かった。限られた時間内で、授業を単調にしない方法を模索する必要を感じた。

限られた時間内で効率的に4技能の総合的育成をするためには、1つの指導に複数の技能要素を混合させることが解決策だと考え、

施策を実践してみた。また、新たに実践する方法も繰り返し行くと、マンネリ化してしまうことも分かった。そのため教師は日々、生徒を飽きさせない施策を考え、実践していく必要を感じた。私が2週間の実習期間中に考えたいくつかの方法とその効果の検証を提示していく。

#### ◇立って本文を音読させる

まず、取り組んだのが生徒全員を立たせて本文を読ませる方法だ。起立時に「各自教科書の本文を3回読み終わったら着席してよし」という指示を出す。この主たる目的は1限目など生徒が眠気を有している時間帯に、「英語の学習を始めるというスイッチ」を入れるという点で有効性を確認できた。実施したクラスとそうでないクラスとでは、授業中に寝る生徒の数に差が出た。前者では寝る生徒がおらず、そうでないクラスには数名寝る生徒がいた。この施策に効果があることを確認できた。1点気を付けることがあるとすれば、教師も一緒に声を出すことだ。そうすることで、教室に声を出す雰囲気醸成できる。また、机間巡視も忘れてはならない。この方法は応用が可能だ。例えば、全員を起立させたあとに、ペアでリーディングをさせる方法との連携もできる。単なるペアリーディングよりも、起立することにより、生徒の声が出ることが分かり、有効だった。

#### ◇オーバーラップ・リーディング

次に取り組んだことがオーバーラップ・リ

ーディングである。CD をかけ、それに続けて生徒が発音する方法である。これは、学習した教科書本文の部分をリーディングさせる。その結果、既習事項（発音・文法・構文等）の復習に繋がるため、リーディング、スピーキング、リスニングの3分野を統合的に学習できる。生徒にとって、多様なスキルを刺激されるため、集中することが他の施策よりも増して求められる。読んで聞いているだけの生徒が、机間巡視をしていると比較的多く観測できた。しかし、文章の意味をとらえようと真剣な表情で読んでいる生徒も中にはいた。この取り組みは、学習意欲が高いクラスであればあるほど、効果が比例して上がりそうだと感じた。

#### ◇英語の歌のディクテーション

また、英語の歌のディクテーションがリスニングスキルとリーディングスキル向上とのシナジー（相乗）効果を発揮した。授業見学においても数名の教師が英語の歌のディクテーションを授業に取り入れていた。私は、それらのアクティビティをもっと効果的にできないかと考えた。現役の教師の方々が「名詞」や「動詞」などの重要語をディクテートさせていたのを拝見した。私は、「名詞」や「動詞」それ自体を書き取らせることは、生徒が脳を使ってリスニングをしなくても埋めることができることだと思った。そこで、「動詞」の三単現のSをはじめとする活用、名詞の複数形など、単に聞いているだけではなく、前後の歌詞から解答を判断しなくては導けないものをディクテートさせた。その結果、生徒が普段以上に程よく緊張感を持って取り組んでいる姿をみることができた。注意深く聞くため、英語の歌への関心も高まったことと思う。英語の歌の活動は「英語への関心」「英語圏の文化への関心」を高めるという点でも、効果があることを実証できたため、有意義だった。

#### ◇クイズの利用

最後に私が取り組んだことは、英問英答のクイズだ。これは例えば、座席表の最後列の者を全員起立させ、私が英語で発問したものに対して、早押し形式にて生徒が解答し、正解したら着席し、前列のものが起立していくというものだ。この強みは、生徒がアクティビティに対して非常なる興味を持つことだ。私が担当したクラスのうち、最も消極的で盛り上がりにかけるクラスであっても、笑顔や英語を楽しんでいる表情がうかがえた。結果として、発問は起立している生徒に対してするものであるが、起立していない生徒も発問されているような気になり、解答を考えるとというメリットがある。4技能の観点では、英問英答なので、リスニング、スピーキングスキルが向上できる。また、発問を本文内容に特化することで、リーディング能力の向上も期待できる。また文法事項に特化することで、文法の復習にも対応できる。その日の授業時間の最後に行うことで、教師としても時間管理がしやすく、扱いやすいアクティビティであった。

以上のように、多様なアクティビティを2週間という短い期間で実施してみた。いずれも時間的、効率的な面でメリットやデメリットがある。しかし、「生徒の興味・関心を引く」、「4技能を限られた時間で指導する」という観点で、いずれのアクティビティも効果を発揮した。よって、英語教師が授業の準備をする際には、アクティビティに積極的に取り組むことが大切だと感じた。教師として活躍するために、日頃から考えていきたいテーマである。